

自宅じゃ
パパとママに
見つかったから
森の中で兄妹が
お○んちんとオ○ンコ
丸出しでエッチな
裸ごっこ

こんな真っ昼間じゃパパとママがいてとても家では出来ないから。

兄のソウイチと、妹のマナミは近くの森の中へ……。

緑をかき分け進む茂みの奥。

数えきれないほどの青葉が繁茂し、辺りはうっそうとしているほど。

枝葉の隙間から日の光が差し込んでくる。

自宅に近い森なので、景色もどこか見覚えがある。

幼稚園の時に友人たちと一緒に遊んだ思い出が通り、ちょっぴり懐かしい気持ちになる二人。

だけど。

二人はそれどころじゃない！！

今、二人の心が弾んでいるのは思い出の景色なんかじゃない。

先週に覚えたばかりの

“裸ごっこ”

をすることだ……。

ソウイチもマナミも普段はお洋服を着て慎ましやかな家庭で過ごしているものだから、裸なんてお風呂に入って体を綺麗にする時だけしかないものだと思っていた。

それでも、この間ふとしたきっかけで二人はお風呂へ入る時以外でも裸になれば何だか気持ち良いということを知った。

だけど、それは“兄妹（じぶんたち）”と一緒に、という条件がある。

妹の、まだ胸もふくらんでおらず、全体的に寸胴な○児体系の身体を見ると、ソウイチはたまらなくなる。どういうわけか股間が疼き、襲い掛かりたくすらなるのだ。一方でマナミもまた、自分より背が高く、足も上半身も昔よりゴツゴツしてきて、自分よりずっと大人なお兄ちゃんの身体に、

昔一緒にお風呂に入っていた頃などとは別の感情を抱いていた。

そしてこの間はずいぶん、二人して裸でひっつき合っ肌と肌とをシュリシュリと擦り合わせたりイチャイチャしているうちにこれまで感じたことのない気持ちに変わって行って……。

もう最後は何が何だか分からなくなって、おしっこを出すためにだけあるはずのおちんちんと、同じくそれだけの目的であるはずの割れ目を、ペロペロと、まるでキャンディーを舐めるように一生懸命に舐め合ったのだった。

「んああんっ！！おにちゃ……ああんそんなとこっ！すごいよおっ！！んああっ！！んああああっ！」

「ジュチュ……すげえここ……おいしいんだ……マナミのこのちっちゃな穴……ああ……ズブズブズッ」

体験版はここまでです。

もし気に入っていただけましたら、

続きを製品版でお楽しみいただけると幸いです。